R B

64

これが『人権』です 侵すことのできない当然の権利 だれもが人間として生きていくうえで

差別のない町をつくろう

第 15 回

5 •

23差別をなくす山都地区集会」



「そんなまちを」を合唱する参加者

目の15回という 合う場です。節 のあらゆる差別仲間はずしなど じめ、いじめや は部落差別をは 体となりながら、子どもたちが主 の参加者がありた。約650人 ことを目的に、 をなくして > <

23 差別をなくす 山都地区集会」 が開催されまし が開催されまし

学部は、 童文学者で詩人のよだじゅん 詩を感性豊かに読み上げました。 と発表しました。 なことをしっかりと伝えたい」 ちさんの詩と、 んだ組と卒園の新一年生は、 「決めつけをせずに、

通して学んだことを発表。それ部落差別の聞き取り学習などを明丸山・内大臣の環境学習、 御岳小学校6年生は、 園児が創作した 水俣病 大事

しました。

歩みを記した年表を会場に展示 こともあり、 開会前のオープニングを務め これまでの集会の

きれいに、いろどりました。大きな虹の絵がうたごえを一層大きな虹の絵がうたごえを一層しました。ステージ横に掲示さ 保護者。 したのは、 たのは、 えて「にじ」を、 で披露しました。 習の成果を、 んことたい いこ)。児童館での 矢響太鼓(やきょうだ 「小鳥のうた」、 、よう」 同和保育園の園児と 力強い 爽やかに合唱 開会後に登壇 Ę, 日ごろのは バチさばき 手話を交 練

上げました。

りやすく問題是センミ・公かにつながるということを、分かを通して偏見や思い込みが差別を通して偏見や思い込みが差別

狭山事件の学習を通し

がありました。解放子ども会小 次に、子どもたちの決意表明 に、子どもとうなり、分かすく問題提起しました。

けて、 しました。 いので、 また、

できなかった。 けたことがあるので、 を出して止めたい」 んなでなくしたい」と決意表明 「いじめを見たが恐くてなにもけて、子どもたちが前に出て、 るので、これからは勇気。これからは勇気

指摘し、「おかしいと思ったらぞれの問題の根っこは同じだと ではなく、 「うわさ話をそのまま信じるの 人でも反対することが大事」 自分で調べるように

大人の決意表明では、郊感想を発表し応えました。

は気をつけたい」などと意見や

周りを変えることはできない などと伝えました。 「川はだれのもの」を合唱し、 」「自分が変わらな さらに、

ちで、差別をなくす輪を広めて育はすべての人を大切にする教育はすべての人を大切にする教放同盟矢部支部から、「同和教放同盟矢部支部から、「同和教

いきたい」との発表がありましちで、差別をなくす輪を広めてちで、差別をなくす輪を広めて

た。

最後に、

「子どもたちの姿を

別やいじめをなくす気持ちを表と言いたい」「リボン登校で差 「間違っていることははっきり感じた差別に対する思いを発表。に日ごろの学習や日常生活から 矢部中学校生徒は、 学年ごと

り拓こう」など5項目のスローの闘いで子どもたちの未来を切の

記した集会宣言を採択。

併せて、 などと

た行動へ高めていこう」

かかわりに気づき、解放に向けとおして、部落問題と自分との

きることがある。そんな壁をみ「子どもと子どもの間に壁がで解放子ども会高校生の部は、 などと訴えました。

これらの決意表明を受

したい

のだから大切にしよう、と歌い川や海は生きているすべてのも

た」「自分に負けたことがあることは自分のためだと分かっしたい」「狭山事件を学習する 乗り越える力をつけた

ガンを採択。

締めくくりに、

「どんなとき

思い でも を参加者は実感しながら、会場く確実に広がっている手ごたえ 域に人権を大切にする輪が、深を参加者全員で合唱。山都町全 おう」との歌詞に差別をなくすんな思いをみんなであたためあ を後にしました いを託し、 人間らしく生きよう

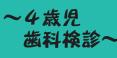
「そんなまちを」

ぼく・わだし

※保護者のご承諾をいただいた赤ちゃんを、

撮影・掲載しています。

歯なかったよ!













すくすく育て

児

(平成22年5月21日=千寿苑)

幼

健

診



